保護者配布版
第 8 号
2026.10.13

久米っ子だより

http://www.kuwana-c.ed.jp/kume-e



令和8年度　全国学力･学習状況調査の結果について

４月に６年生を対象として実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。

この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その結果をもとに教育施策や学校における指導方法の改善・充実を図ることを目的として、文部科学省が毎年実施しているものです。また、児童一人ひとりの学習状況を把握し、個に応じた支援や授業改善につなげることも大切な目的の一つです。

なお、この調査は教科の一部の内容について実施されたものであり、子どもたちの学力の全てを表すものではありません。本校では、日頃の学習の様子や単元テスト、学級での学びの姿なども踏まえ、子どもたち一人ひとりの成長を総合的に捉えています。

今回の調査では、国語・算数ともに平均正答率は国及び三重県の平均を下回る結果となりました。一方で、基礎的・基本的な知識や技能については概ね定着していることが確認できました。しかし、身に付けた知識や技能を活用して考えるカや、理由や根拠を明確にしながら自分の考えを表現する力には課題が見られました。

【国語の結果と分析】

内容別に見ると、「言葉の特徴や使い方」や「話すこと・聞くこと」については、これまでの学習を通して身に付けた知識や技能が一定程度定着していることが分かりました。日頃の授業においても、相手の話を聞いて内容を捉えたり、言葉の使い方を意識したりする力が身に付いてきていることがうかがえます。

一方で、「書くこと」や「読むこと」については、全国平均との差が大きく、課題が見られました。特に、文章に書かれている情報を正確に読み取り、必要な情報を選び出したり、文章中の叙述を根拠にして自分の考えをまとめたりすることに難しさが見られました。単に文章の内容を理解するだけでなく、「どこにそう書いてあるのか」「なぜそのように考えたのか」を明確にしながら、自分の考えを形成する力をさらに伸ばしていく必要があります。

また、問題形式では記述式問題の正答率が低く、自分の考えを文章にまとめ、相手に伝わるように表現する力にも課題が見られました。これは、知識や技能が身に付いていないということだけではなく、身に付けた知識を使って考え、それを言葉にして表現することに難しさがあると捉えています。

今後は、文章を読む際に、重要な言葉や文章中の根拠に着目しながら内容を捉える活動を充実させます。また、「なぜそう考えたのか」「文章のどこからそう考えたのか」を説明する機会を増やし、根拠を明確にして自分の考えを書く活動を継続的に取り入れていきます。さらに、友達と考えを伝え合い、異なる考えに触れることで、自分の考えを見直したり深めたりする学習を充実させ、「読む力・書く力・伝える力」の向上を図ります。

【算数の結果と分析】

領域別に見ると、「変化と関係」については全国平均を上回っており、数量の関係を捉えたり、二つの数量の関係に着目して考えたりすることについては、一定の成果が見られました。これまでの学習で身に付けた知識や技能を用いて、数量の関係を考察する力が育っていることがうかがえます。

一方で、「図形」「データの活用」「数と計算」については全国平均を下回り、課題が見られました。特に、基本的な知識や計算技能を身に付けるだけでなく、それらを問題の場面に応じて活用し、どのように考えればよいかを判断することに難しさが見られました。図形の性質を活用したり、表やグラフから必要な情報を読み取ったり、数量の関係を捉えて問題を解決したりする力をさらに伸ばしていく必要があります。

また、評価の観点では「思考・判断・表現」、問題形式では記述式問題の正答率が低く、答えを求めることだけでなく、「なぜその答えになるのか」「どのような考え方で解決したのか」を説明する力に課題が見られました。自分の考えや解決の過程を、図や式、言葉などを使って表現する経験をさらに積み重ねることが必要です。

今後は、基礎・基本となる知識や計算技能の確実な定着を図るとともに、答えを求めた後に「なぜそうなるのか」「別の方法でも解けるか」「どの考え方が分かりやすいか」などを考える学習を取り入れていきます。また、図や表、グラフ、式などを相互に関連付けながら考える活動や、日常生活の場面と関連付けて数量を捉え、問題を解決する学習を充実させます。

さらに、友達と解決方法を説明し合ったり、互いの考え方を比較したりする活動を通して、自分の考えを整理して説明する力や、他者の考えを取り入れて自分の考えを深める力を育成していきます。こうした学習を積み重ねることで、知識・技能を確実に身に付けるとともに、それらを活用して考える力、判断する力、表現する力の向上を図ります。

【今後の取組として】

今回の調査結果から、本校では、国語・算数の両教科に共通して、基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることに加え、学んだことを活用して考え、その考えについて根拠をもって分かりやすく表現したり、解決の過程を説明したりする力を育てていくことが重要であることが明らかになりました。

一方、児童質問紙では、「友達との話し合いを通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」「友達や周りの人の考えを大切にし、協力して課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童がいずれも 84%となっており、友達と関わりながら学ぶことについては、肯定的に捉えている児童が多いことが分かりました。これは、本校の学習における大きな強みの一つであると考えています。

そこで今後は、こうした「友達と学び合う力」を生かしながら、対話をすることだけで終わらせず、友達の考えを聞いた後に、自分の考えを整理したり、見直したり、さらに深めたりする学習を大切にしていきます。また、話し合いの中で出された考えを、文章や言葉、図、式などを用いて自分なりに表現する活動を充実させ、学力調査で課題となった「根拠をもって考えを表現する力」の育成につなげていきます。

国語や算数に限らず、すべての教科において、「自分の考えをもつ」→「理由や根拠を明確にする」→「友達と考えを伝え合う」→「友達の考えを受けて、自分の考えを見直し、深める」→「自分の言葉で表現する」という学びの過程を大切にしていきます。

また、基礎・基本の確実な定着にも引き続き取り組み、学んだ知識や技能を実生活や新たな課題に活用する場面を意図的に設定します。さらに、学習の終わりには、「何が分かったのか」「どのように考えたのか」「次に何を学びたいのか」を振り返る機会を設け、自分の学びを自分で調整する力の育成にも努めてまいります。

【児童質問紙（生活・学習状況）】

〇成果が見られた項目（あてはまる・どちらかといえばあてはまる）

- 毎日、朝食を食べている（92%）
- 毎日、同じくらいの時刻に起きている（92%）
- 自分にはよいところがあると思う（88%）
- 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う（96%）
- 人が困ったときは、進んで助ける（92%）
- 人の役に立つ人間になりたいと思う（100%）
- 学校に行くのは楽しい（92%）
- 友だち関係に満足している（92%）
- 学級で、人と違う意見を言っても否定されないと思う（92%）
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある（96%）
- インターネットを使って情報を収集することができると思う（88%）
- 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる（84%）
- 学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を整理し、次の学習につなげることができている（84%）
- 先生は、授業やテキストで間違えたところや、理解していなかったところについて、分かるまで教えてくれていると思う（92%）
- 授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる（84%）

〇今後、より充実させていきたい項目

- スマートフォン、PC、タブレット等で１日当たり４時間以上、SNS や動画を視聴している（52%）
- 学校の悩みについて、親や家族に話す（52%）
- 困りごとや不安があるときに、先生や大人にいつでも相談できる（32%）
- 学校以外に、平日一日あたりどのくらい勉強しているか（学習塾等含む）（３０分未満 56%）
- 学校以外に、普段一日あたりどのくらいＰＣやタブレットなどのＩＣＴ機器を使って勉強しているか（30 分未満 64%）
- 学校が休みの日に、一日あたりどのくらい勉強しているか（学習塾等含む）（１時間未満 68%）
- 学校以外に、普段一日あたりどのくらい読書をするか（１時間未満 68%）
- 学校図書室にどのくらい行くか（ほとんど行かない、行かない 72%）
- 放課後や学校が休みの日に、地域の図書館にどのくらい行くか
  （ほとんど行かない、行かない 56%）（近くに図書館がない 36%）
- ＰＣやタブレットなどのＩＣＴ機器で文章を作成することができると思う（24%）
- ＰＣやタブレットなどのＩＣＴ機器を使って情報を整理することができると思う（28%）
- ＰＣやタブレットなどのＩＣＴ機器を使って学校でのプレゼンテーションを作成することができると思う（32%）

【分析と考察】

児童質問紙の結果からは、基本的な生活習慣や学校生活、人との関わりについて、良好な状況が見られました。「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童はいずれも92%で、基本的な生活習慣が身に付いていることがうかがえます。

また、「学校に行くのは楽しい」92%、「友だち関係に満足している」92%、「先生は自分のよいところを認めてくれている」96%、「学級で、人と違う意見を言っても否定されない」92%など、学校や学級を安心して過ごせる場として捉えている児童が多いことが分かりました。「人が困ったときは、進んで助ける」92%、「人の役に立つ人間になりたい」100%、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」96%という結果からも、友達や周囲の人とのつながりを大切にしながら、前向きに学校生活を送っている様子がうかがえます。

学習面でも、「学級の友だちとの話し合いを通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる」84%、「学習した内容について、分かった点や分からなかった点を整理し、次の学習につなげることができている」84%、「友だちや周りの人の考えを大切にし、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」84%など、対話や協働を通して学びを深めようとする姿勢が見られました。また、「先生は、間違えたところや理解していなかったところについて、分かるまで教えてくれている」92%であり、教師による学習面での支援についても肯定的に受け止められています。

一方で、学習習慣や読書習慣については、今後さらに充実させていく必要があります。学校以外での平日の学習時間は「30 分未満」が 56%、学校が休みの日の学習時間は「1 時間未満」が 68%となっています。また、普段の読書時間についても「1 時間未満」が 68%で、学校図書室に「ほとんど行かない・行かない」と回答した児童が 72%、地域の図書館についても「ほとんど行かない・行かない」が 56%となっています。読書は、語彙を豊かにし、文章を読み取る力や考える力、表現する力を育む基盤となることから、学校での読書活動をさらに充実させるとともに、家庭でも読書に親しむ機会を大切にしていきたいと考えています。

また、ICT の活用については、「インターネットを使って情報を収集することができる」と回答した児童が 88%である一方、「ICT 機器で文章を作成することができる」76%、「ICT 機器を使って情報を整理することができる」72%、「ICT 機器を使って学校でのプレゼンテーションを作成することができる」68%となっています。情報を検索するだけでなく、収集した情報を整理し、自分の考えをまとめ、表現するために ICT を活用する力には、さらに伸ばしていく余地があります。

さらに、自己肯定感や相談に関する項目にも目を向ける必要があります。「自分にはよいところがある」と回答した児童は 88%で、多くの児童が自分のよさを認めている一方、12%の児童が否定的な回答をしています。また、「学校の悩みについて、親や家族に話す」については 52%の児童が否定的に回答しており、「困りごとや不安があるときに、先生や大人にいつでも相談できる」についても、否定的な回答が 32%ありました。学校生活を楽しみ、周囲との関係を良好に感じている児童が多い一方で、困ったときや悩みを抱えたときに、一人で抱え込まず、身近な大人に安心して相談できる環境をさらに整えていくことが大切です。日頃から子どもたちの小さな変化や声を丁寧に受け止め、相談しやすい関係づくりを進めていきます。

加えて、スマートフォンや PC、タブレット等で 1 日 4 時間以上 SNS や動画を視聴している児童が 52%いることから、ICT 機器の利用については、学習面での活用だけでなく、生活習慣とのバランスについても考えていく必要があります。学校と家庭が連携し、ICT を上手に活用しながら、生活リズムを整えることの大切さについても考える機会を設けていきます。

今後は、安心して学び合える学級づくりという本校の強みを生かしながら、学習習慣や読書習慣の充実、ICT を活用して情報を整理・表現する力の育成、そして困ったときに安心して相談できる環境づくりを進めてまいります。また、国語・算数の学力調査で課題となった、根拠を明確にして自分の考えを表現する力や、学んだことを活用する力についても、すべての教科の学習を通して育成していきます。